



日本民藝館改修記念 名品展Ⅱ

近代工芸の巨匠たち

2021年 7月6日(火) - 9月23日(木祝)

〔上段左より〕白地草花文長角鉢 河井寛次郎 1939年 幅23.8cm／飴釉筒描皿 濱田庄司 1931年 径17.8cm／〔中段〕式場隆三郎編「バーナード・リーチ」型染装幀・芹沢銈介 1934年／ガレナ釉櫛描柳文楕円皿 バーナード・リーチ 1952年 長33.4cm／「工藝」第101号 版画装幀・棟方志功 1939年／〔下段〕辰砂菱花文鉢 河井寛次郎 1941年 径21.0cm／海鼠釉紋押鉄絵角皿 濱田庄司 1944年 幅20.5cm

日本民藝館

<https://www.mingeikan.or.jp/>



近代工芸の巨匠として知られるバーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司〔以上陶芸〕、芹沢銈介〔染色〕、棟方志功〔版画〕。2回目の改修記念名品展となる本展では、当館創設者の柳宗悦(1889-1961)と深い親交を結んだ彼らの作品と、初期民藝運動に関わった富本憲吉〔陶芸〕や黒田辰秋〔木漆工芸〕の作品を加え、近代工芸史上に大きな足跡を刻んだ巨匠たちの作品を展示します。

当館のコレクションは古い時代の工芸品が中心ですが、柳はそこから美の法則を汲み取り、新しい作品を生み出す礎とすべき、と説いています。作家たちはまさにそれに応えるべく、優れた実用工芸を生み出し、当館コレクションのもう一つの主軸となりました。1936年の開館時の展覧会が「新作業展」で、メイン会場の大展示

室に彼らの作品が展観されたことがそれを象徴しています。

開館85周年となる本年、当館の大展示室は1982年の改築工事以来約40年ぶりに、創設時に近い空間へと生まれ変わりました。大展示室を中心とした展示室2階では、大正時代から1945年までの巨匠たちの作品を展観し、民藝運動が胎動し成熟した時代を振り返ります。展示室1階では、それぞれの作風を確立させた戦後の作品を展示して生涯の仕事を辿り、さらには濱田・富本・芹沢・黒田に続き重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された金城次郎〔琉球陶器〕、島岡達三〔縄文象嵌〕ら、後の時代を引き継いだ作家たちの作品も合わせて紹介します。民藝運動の本拠地・日本民藝館という独特な展示空間で、巨匠たちの作品をご堪能下さい。

1. 染焼葡萄文蓋付壺 バーナード・リーチ 1913年 高25.6cm / 2. 笹牡丹唐草文帯地(部分) 芹沢銈介 1935年 / 3. 辰砂草文湯呑 河井寛次郎 1925-28年 径7.8cm / 4. 焼締黒流水注 濱田庄司 1925-28年 高16.0cm / 5. 色絵薔葉文角皿 富本憲吉 1936年 幅28.4cm / 6. 萬葉譜 梅の柵 棟方志功 1935年 縦42.6cm / 7. 朱漆三面鏡 黒田辰秋 1928年 高180.5cm

□10:00-17:00(入館は16:30まで) □月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館) □一般 1,200円 大高生 700円 中小生 200円 □西館公開日(旧柳宗悦邸)・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで)※変更が生じる場合がございます □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □TEL.03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<https://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

次回展・棟方志功と東北の民藝 10月1日(金)~11月23日(火祝)

